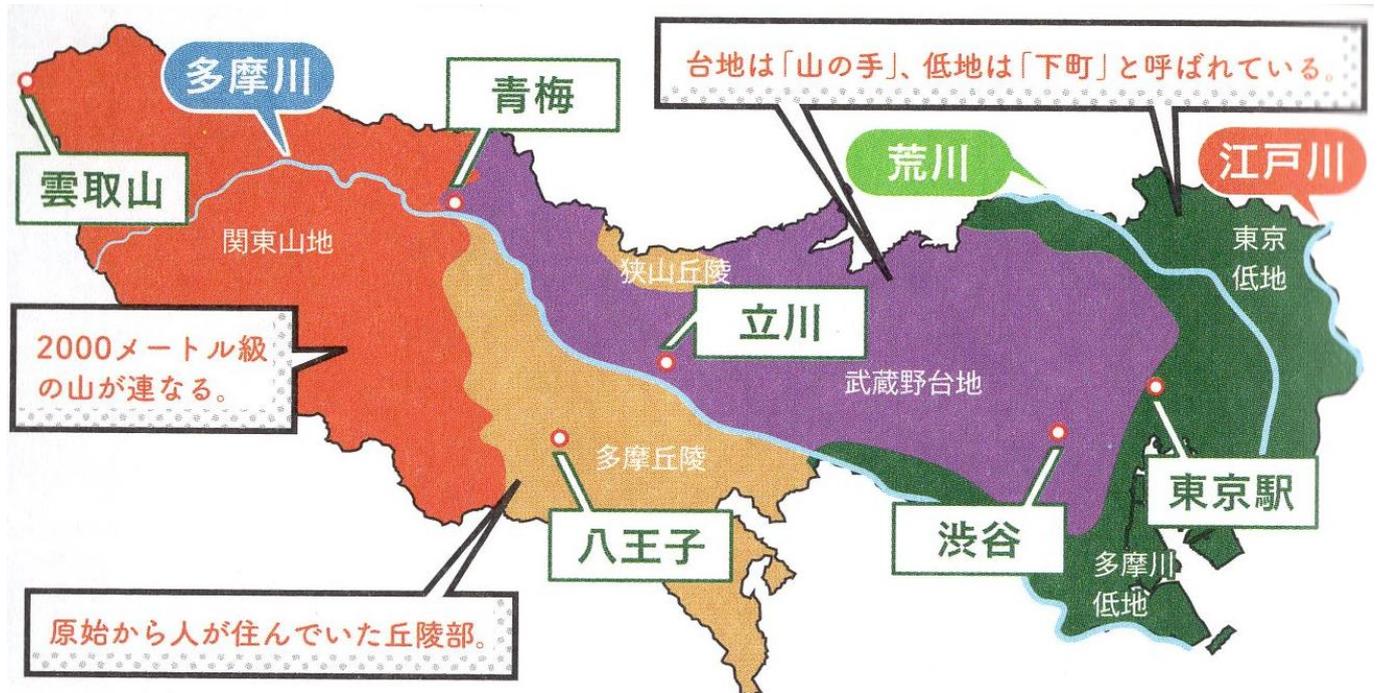


東京都は、面積が約 2190 平方キロ。香川県、大阪府に次いで日本で 3 番目に小さい。



多摩地域の丘陵部には、縄文時代から人々が住んでいた遺跡が残る。武蔵野台地の地層を構成している関東ローム層は、富士、箱根、浅間などの火山灰が積もったもの。そこには渋谷など、河川によって削られてできた「谷底の町」が多く生まれた。また、武蔵野台地と東京低地の高低差により、23区にはたくさんの坂が見られる。

そこから東へ向かって徐々に低くなり、東京低地との境目付近の標高は約 20 メートル程度だ。

23 区のなかで逆にほとんど坂がないのは、武蔵野台地の上にある練馬区、杉並区、中野区、そして東京低地に位置する墨田区、江東区、江戸川区、中央区、足立区、葛飾区などだ。

東京の地形を見ると、武蔵野台地と東京低地の境にあたる地点での急な高低差が目立つ。千代田区、港区、文京区、台東区などでは場所によって 15 メートル以上の高低差（比高）がある。多摩川沿いの低地との境にある世田谷区や大田区でも同様だ。

高低差があれば、そこには当然坂が生まれる。台地と低地の間にある数々の段差が、江戸・東京を「坂の町」にしたといってもよいだろう。



# JR京浜東北線を中心としたおもな坂



目白通りから南の神田川に向かって下るのぞき坂(豊島区)。クルマの通行が可能な都内の道路として、最も傾斜が急な坂のひとつ。



※矢印の向きは下り坂の方向を指す。

JR京浜東北線は武蔵野台地と東京低地の境を走っており、その台地のきわに沿って坂が並んでいる。台地の内陸にある坂は、川の浸食により谷が形成されて生まれた。東京の坂は、台地と川によってつくられたといえる。

国土地理院標高図をもとに作成

舌状台地とは、川の浸食を受けずに残った高台が、舌のような形で低地側に突き出した台地の末端のことだ。

## 山の手に広がる舌状台地





# 水害の危険がある「海拔ゼロメートル地帯」

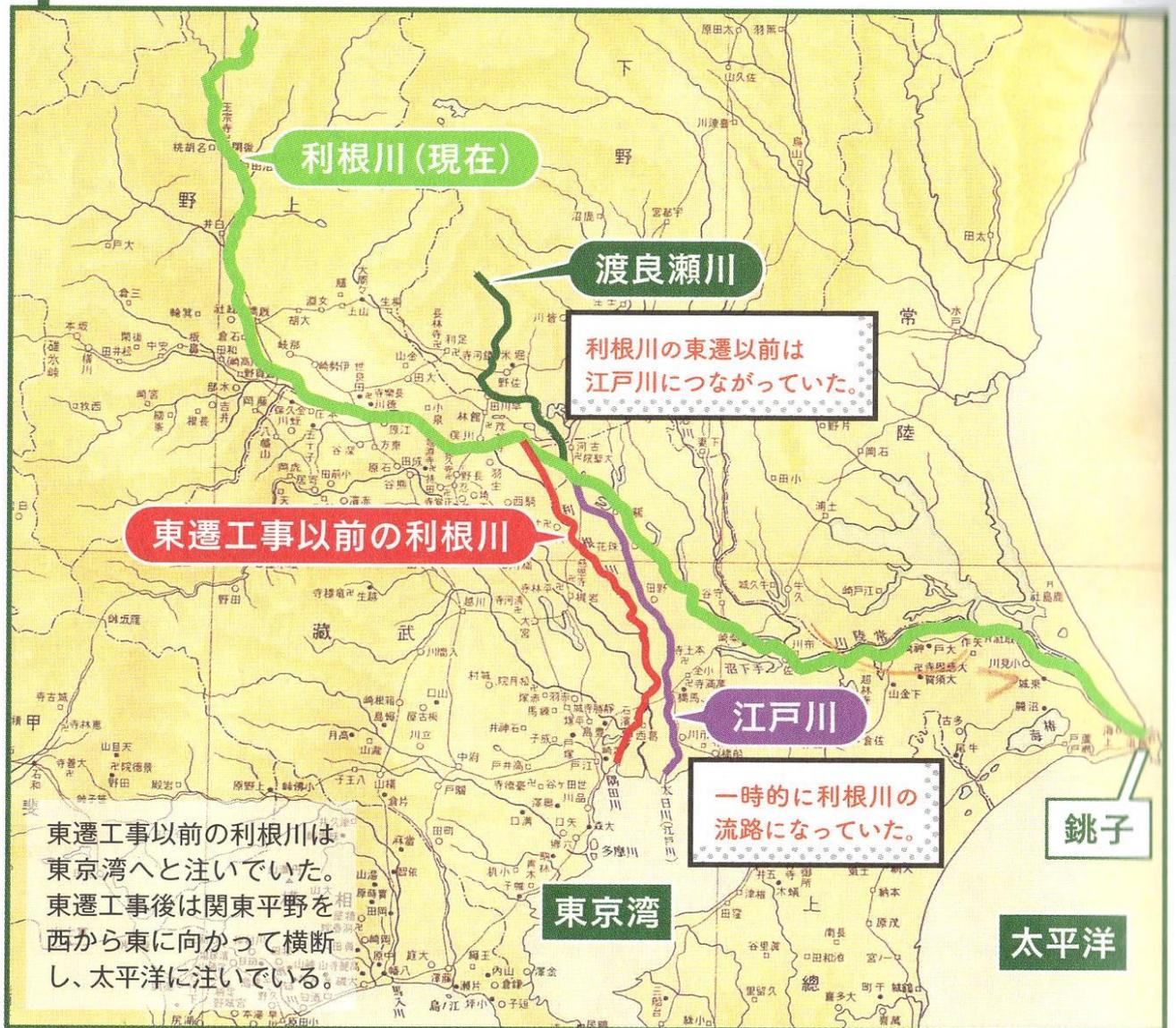


国土地理院標準地図／東京都建設局資料をもとに作成

1590（天正18）年に江戸入りした徳川家康は、入り江を埋め立て、運河を掘るなど、江戸周辺の地形を大きく改変することで、江戸の町を将軍のお膝元にふさわしい巨大都市へと発展させた。

とりわけ大胆だったのが、利根川の「東遷」と荒川の「西遷」という、大規模な河川の付け替え事業だ。1594（文禄3）年から1654（承応3）年まで**60年**に及ぶこの治水工事は、関東代官頭（後の関東郡代）の伊奈忠次、その息子の忠治、忠治の息子の忠克という親子三代が指揮を執った。

## 大きく流れを変えた利根川



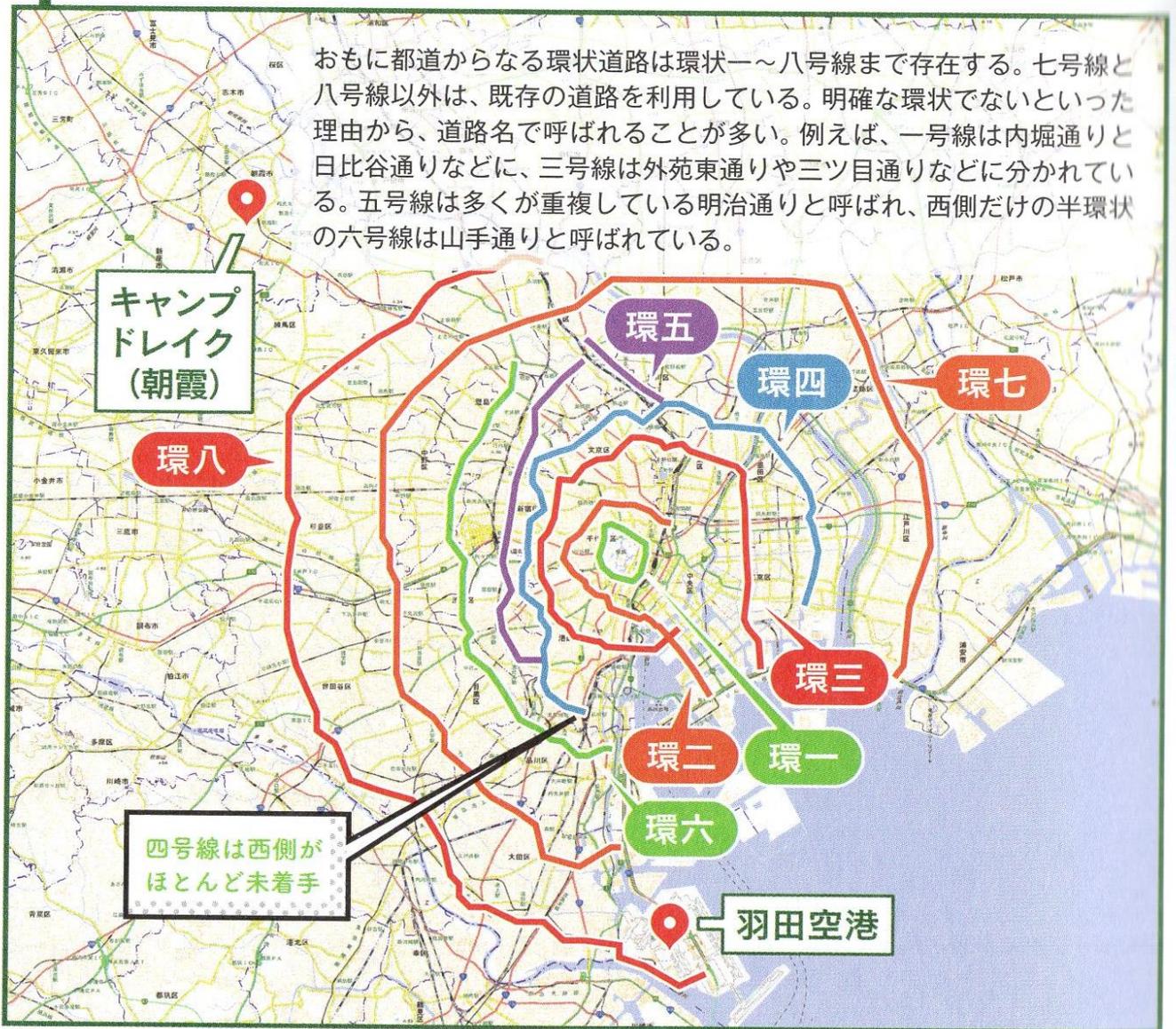
吉田東伍『大日本読史地図』（1935年、国立国会図書館所蔵）／国土交通省の資料をもとに作成

### 高尾山

新宿駅から電車で45～60分程度の距離に位置し、1時間半ほどで山頂に達する手軽さもあり、人気の観光スポットとしてにぎわっている。登山者数は富士山よりも多く、年間約300万人と世界一を誇る。

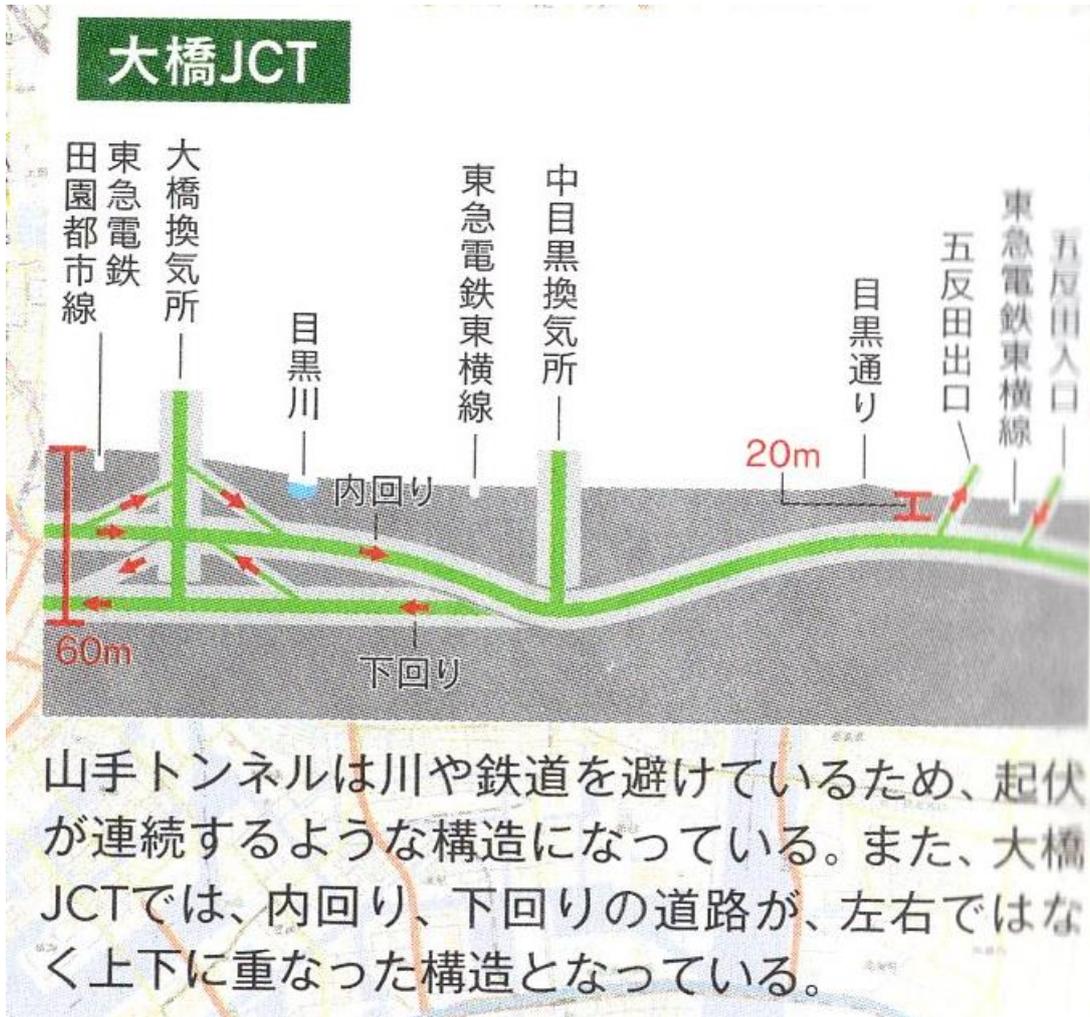


## 東京の環状道路



国土地理院標準地図をもとに作成

都道 318 号の環状七号線（環七通り）は、大田区平和島を起点として、世田谷区、杉並区、足立区など、都内 11 区を貫き、江戸川区臨海町に至る。現在の総延長は 52.5 キロで、都道として最大の規模を持つ。



山手トンネルは、道路トンネルとしては日本で、ノルウェーのレアダールトンネルに次いで**世界2位**の長さを誇る。

...

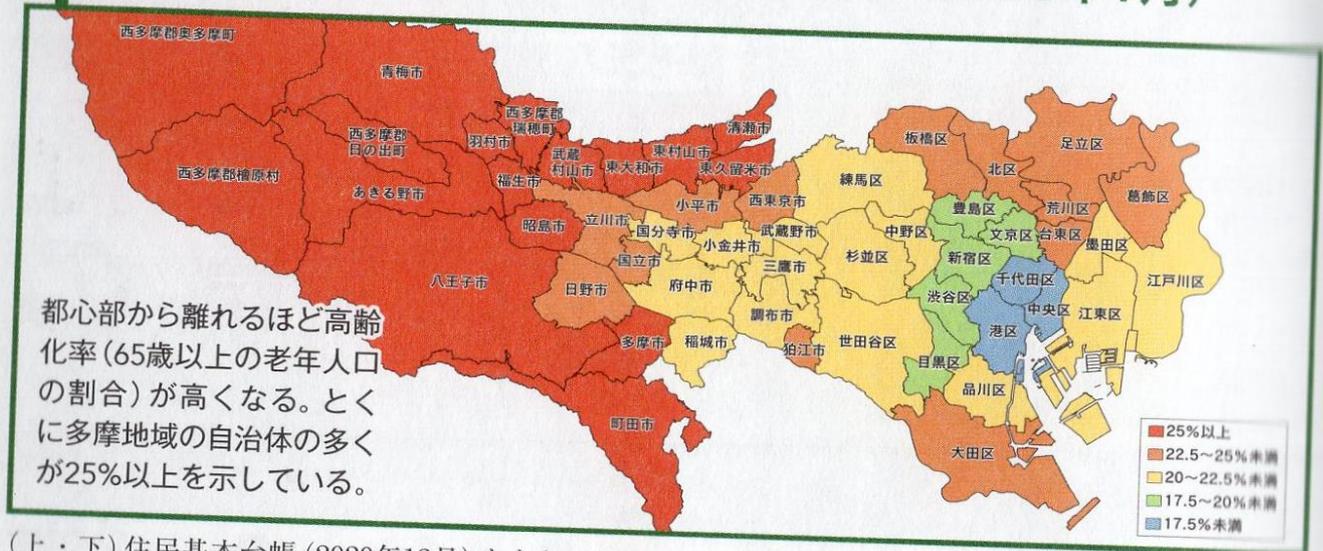
山手トンネルは起伏が激しいトンネルとしても知られている。最も深いところ（大橋1CT付近）で約60メートル、浅いところ（中野長者橋出入口や五反田出入口付近）で約20メートルと、山手トンネル内部の**最大高低差は40メートル**もある。都心の地下では、地下鉄や、ガス管・水道管などの埋設物が多重に混み合っており、これら避けるため、必然的にそうせざるを得なかった。

現在、この**高低差が渋滞を引き起こす一因**にもなっている。

武蔵村山市は、都内で唯一、鉄道の駅がない市だ。



## 東京都の市区町村別の老年人口割合 (2020年1月)



現在、多摩地域が抱えている課題のひとつが住民の高齢化だ。1900（明治33）年頃の多摩地域の人口は約25万人で、現在の6%ほどだった。1955（昭和30）年には100万人を数え、高度経済成長期に多摩ニュータウンなどの開発が進むと約20年で300万人に達した。

ニュータウンには同時期に同世代が大量に入居するため、いっせいに高齢化する特性がある。23区の高齢化率は20%に届いていないが、多摩地域は25%超で、なかには50%に近い自治体もある。今後も少子高齢化は、区部以上に進むと考えられる。



## 東京湾に浮かぶ中央防波堤埋立地



国土地理院空中写真をもとに作成

東京都自治紛争処理委員が仲介したが、協議は結局司法の場へ。東京地裁は江東区79・3%、大田区20・7%という案を提示。2019(令和元)年、両区はこの案を受諾し、領土争いは終息した。

結果、海の森水上競技場は江東区に帰属して周辺の住所は「江東区海の森」に、大田区側の住所は「大田区令和島」となった。